

第五次須坂市総合計画 基本構想における「ほんもの」の定義

「ほんもの」とは、「にせもの」や「作りもの」ではなく、人々の思いが込められている須坂独自の、そして他では真似のできない「もの」や「こと」、「ところ」などである。

- ・ 地元を愛し、須坂のために尽くす気持ちや行動
 - ・ 土地土地のものを大事にし、受け継いでいる精神
 - ・ 先人から受け継いできた文化や活動
 - ・ 須坂市から出た人々が恩を還元してくれているところ
 - ・ 須坂を訪れる人に対するもてなしの心、須坂に住みはじめる人を受け入れる心
- これらは須坂市の「ほんもの」である。

これら「ほんもの」さらに、一人ひとりが輝き、人と人とのつながりを磨きかけることで、他では真似のできない「ほんもの」のまちと須坂市はなっていく。

例：

◇ 昔から須坂に暮らしてきた人々が築いてきた伝統や地域の多様な文化

- ・ 八丁鎧塚
- ・ 笠鉾と踊り屋台
- ・ 米子不動尊のお山登り 等

◇ 四季折々の豊かな自然

- ・ 地区それぞれの昔から変わらない豊かな自然
- ・ 米子大瀑布
- ・ 檜に刺さる夕陽 等

◇ 奉仕の精神で互いに協力し、互いに享受しながら地域の良さを一層高めるコミュニティ

- ・ 保健補導員会
- ・ 活発なボランティア活動
- ・ 新・地域見守り安心ネットワーク 等

◇ 須坂に住まうことで創り出される温かい気風によるホスピタリティ

- ・ 須坂を訪れる人を迎えるおもてなしの心
- ・ 須坂温泉古城荘、湯っ蔵んど
- ・ 須坂市動物園 等

◇ 地域に根ざした企業・産業

- ・ 多くの堅実な企業

- 製糸産業で培われた企業風土
- 独自の技術
- 風土をいかしたりんごやぶどうなど農産物 等

【第五次須坂市総合計画 基本構想より抜粋】

「ほんもの」には、「にせものや作りものでない」「本来の」「本当の」「真に大切な」という意味があります。「ほんもの」であることが大切にされ、これまでも、そしてこれからもずっと続くものです。須坂市の「ほんもの」とは、昔から須坂に暮らしてきた人々が築いてきた伝統や地域の多様な文化、四季折々の豊かな自然、奉仕の精神で互いに協力し、互いに享受しながら地域の良さを一層高めるコミュニティ、須坂に住まうことで創り出される温かい気風によるホスピタリティ、このほか地域に根ざした企業でもあり、私たちが須坂を愛する心や想いでもあります。

参考：

将来像『 一人ひとりが輝き、磨かれた「ほんもの」の魅力あふれるまち 須坂 』について、総合計画審議会 遠藤会長のご意見

私たちは須坂市の魅力と活力を生み出し、そこに住むことの誇りと魅力を高めていく。更に須坂市に住むことの魅力を高めるためには、須坂市に住み続けることの魅力を高め、且つ市民1人1人に活力を生み出すまちでなければならない。須坂の空気を吸って、水を飲んで、そこの社会に住むことが市民の生き生きした暮らしを生み出し、須坂に住むことが活力を生む。そして更に須坂の魅力を高め須坂に住み続ける。温かい市民の気風や須坂の人のホスピタリティを持ち続けて。

本物が持つ独特の光、輝きは後から来る人を排除するのではなく、そういう人達も受け入れ、須坂に住んで本物になる。そういう未来志向である。過去を見てもものではない。須坂に来る事によって、外から来た人達が須坂の空気や文化に触れ、“本物化”していく。むしろそれも須坂の活力になっていく。外から来る人によってより“本物”になっていく。須坂に来る人は皆、須坂の文化、水、自然などに触れ“本物”になっていく

地方の魅力は人と人とが織り成す社会関係。市民一人ひとりが織り成す、創り出す須坂の地域社会がとても安定感、安心感であり、そういう中で未来志向の子供達が育つ。そして暖かいホスピタリティの溢れる、独特のまち、須坂となる。これが“須坂に住まうことで魅せる地域づくり”である。

豊かなホスピタリティを持った素晴らしい地域の良さを一層高めるコミュニティ。そのような地域に魅せられた新たな人々をひきつける力を生む。

そういう地域こそ新たな人々を魅了し、それが地域の活力にも反映させる。須坂の魅力にひきつけられ、須坂に住みたい人が来る、それにより地域の活力がまた高まる。